

子連だより

No. 130



第五十二回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会静岡大会参加報告 次年度新潟大会に多くの課題は託された

一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会 副会長 風間 浩一

去る十月二十日～二十一日に静岡県熱海市で行われた、関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会、通称「関プロ研究大会」に参加しましたので、報告いたします。本県からは来年在新潟大会ということもあり、情報収集共有化を目的に三十三名で参加し、各県代表と意見を交換しました。

【開会式】

『これからの時代に求められる子ども会を考えよう』をスローガンに掲げた本大会は、イン・リーダーの司会で始まり、指定無形文化財の三島磯子という『しゃぎり』を子どもたちがオープニングセレモニーで演奏してくれました。

実行委員長から開式宣言が発表され、主催者として関プロ会長であり、全子連会長でもある河本氏から挨拶いただき、子ども会功労者の表彰を行いました。

来賓には静岡県副知事・県議会議長・熱海市長・教育長が出席されており、祝辞をいただきました。

静岡県子連副会長の森主氏より開式の言葉があり、式典は終了となりました。

【基調講演と分科会】

基調講演は元法政大学大学院教授の坂本氏から『五方良しの組織運営

が正しい』と題する経営戦略に関する講演をいただきました。

分科会は第一から第六までの三科六分会で、一から四分科会は年齢別の分会で、五年先の子ども会について討議が行われました。

第五分会は「J・L・Y育成の土壌をいかに豊かにするか」的な討議を行ったようです。

第六分会は「安全啓発活動」について講演形式で行われたようで、「目から鱗の考え方が披露された」と参加者からの言葉が聞きました。

分科会討議は約二時間行われ初日の日程は終了し二日目の午前さらに継続討議がされました。

【総評】

毎回ここで各分科会の個別評が分科会のアドバイザーやファシリテーターから有るのですがそれがなく、大会実行委員長から総評があったのみでした。ここで、さらに踏み込んだ内容を新潟大会に期待するような発言があり、結論の出ない議論を託された形となりました。

【閉会式】

開式の言葉が実行委員長からあり、関プロ会長が主催者を代表して挨拶いただきました。その後開催県実行委員長より次年度開催県の須田会長

に大会旗を引き継がれ、新潟大会の意気込みを語っていただきました。

静岡県子連副会長から閉式の言葉があり全日程を無事終了となりました。

本県参加者はあと一年と迫った開催に意欲を燃やす大会となりまし

た。本県参加者はあと一年と迫った開催に意欲を燃やす大会となりまし

た。本県参加者はあと一年と迫った開催に意欲を燃やす大会となりまし

た。本県参加者はあと一年と迫った開催に意欲を燃やす大会となりまし

た。本県参加者はあと一年と迫った開催に意欲を燃やす大会となりまし

た。本県参加者はあと一年と迫った開催に意欲を燃やす大会となりまし





第五十三回全国子ども会育成中央会議・研究大会報告

未来の子どもたちのための子ども会活動

一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会 副会長 岡田 政枝

昔日の繁栄がしのばれる天領の町岡山県倉敷市で第五十三回全国子ども会育成中央会議・研究大会が十月四日～六日に開催されました。

倉敷市芸文館大ホールにて開会式が開催され、七人の来賓の方々が参列され四人の方が祝辞をのべられました。

次に表彰が行われ本県からは、指導者・育成者の部より長岡市の椋澤政晴様、上越市柿崎区の小山涼子様、子ども会の部より長岡市の悠和子ども会様が表彰されました。表彰された方々には、今後益々の活躍をご期待申し上げます。

今大会のテーマは「未来の子どもたちのための子ども会活動」でした。基調講演「今・家庭・家族に必要なもの」家庭に笑顔がありますかと題した大阪府茨木市出身で現在、学校法人森教育学園 広報室長及び岡山学芸館高等学校保護者教育相談員 岡山県青少年健全育成促進アド

バイザー等で活躍されている森美智子様よりご講演いただきました。

著書の中より「生まれてきてくれてありがとう 生んでくれてありがとう」「子どもは「週間で変わる」抱きしめる子育てのすすめなど自身の家庭・家族のすごしたことや体験を元に話されました。

二日目の分科会は十分科会に分かれ研究協議が行われました。

第一「こんな子ども会活動に取組んでいきます!」、第二「組織づくりから加入率を上げるには」、第三「育成者の指導力を伸ばすために」、第四「育成者・指導者について議論する」、第



五「町づくりと子ども会」、第八「関係団体との連携」、第七「シユニア・リーダー、シニア・リーダーについて」、第八「討論会、シユニア・リーダー、シニア・リーダーの課題と展望」、第九「防災の取り組み」、第十一「未来委員会「子どもの手による子ども会」を検証する。でした。

私は第五分科会に参加し、他県の発表を聞き、その後その事例を参考にグループ協議を活発に行いました。

倉敷市芸文館大ホールにて、映画「キセキの葉書」を鑑賞後、記念講演「可能性の扉を開けて」と題し、キセキの葉書の原作者、脇谷みどり様よりご講演をいただきました。映画は阪神淡路大震災から半年。兵庫県西



宮市を舞台に、難病の娘と認知症とうつ病を併発する母に挟まれながらも、押し寄せる逆境の中を明るく、朗らかに勝ち抜いたひとりの女性の物語でした。脳性麻痺の娘の誕生を機に介護に奔走・郷里の母がうつ病を発症。母を励ますために一日一枚の絵ハガキを約十三年間送り続けた自身の体験などを話されました。

その後、大会旗が次年度開催の北海道へ引き継がれ閉会されました。最後にこの大会を通して他県の方々と交流ができたことに感謝し、これからも中央会議・研究大会が益々発展することを祈念し報告といたします。



地域全体で未来を担う 子どもたちの成長を支えていこう

新潟県教育庁生涯学習推進課 副参事・社会教育主事 伊藤 彰

一 はじめに

「灯火親しむべし」ということで、秋の夜長に、働き方改革後の中学校教員とその家族の様子を描いた小説「めっしほっこう（滅私奉公）」学校の働き方改革を通して未来の教育をひらく（藤川伸治著 明石書店）を読みました。物語中、「学校内で勤務する時間を減らすこと自体が目的になっていきます。何のための働き方改革か、誰も真剣に考えたことはありません。」「勤務時間を記録しても多忙化は何も変わらないうことから、次第に、形骸化しているのが現状です。」等、登場人物の言葉から機を逸するのではないかと、いつ不安感を抱きました。

二 学校がこれまで以上に

教育活動に力を注ぐために

今年の一月、中央教育審議会が、「学校の働き方改革」を推進するためのの方策を示した答申を取りまとめました。そこでは、教師が授業等の本来の業務に専念できるようにするため、これまで学校・教師が担ってきた業務を仕分けし、優先順位をつ

けて減らしていくことが提案されています。

- 登下校に関する対応
- 放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導されたときの対応
- 学校徴収金の徴収・管理
- 地域ボランティアとの連絡調整

これらについては、基本的に「学校以外が担うべき業務」で、内容に応じて、地方公共団体や教育委員会、保護者や地域ボランティアなどが担うべきとしています。

- 調査・統計等への回答等
- 児童生徒の休み時間における対応
- 校内清掃
- 部活動

これらについては、学校の業務であっても、必ずしも教師が担わなければならない業務ではないという位置付けです。教師以外の担い手として、事務職員や地域ボランティア等の活用が挙げられています。

また、これまで学校の伝統として行ってきたものであっても、子どもたちの学びや健全な発達の観点からは必ずしも適切とはいえないもの、

本来は家庭や地域が担うべき「夏休み期間のプール指導」や「休日の地域行事への参加の取りまとめや引率」等は、大胆に削減することが重要とされました。地域全体で子どもたちを育む体制整備が急務となっています。

三 地域の多様な教育活動を

継続するための仕組みづくり

地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校がパートナーとして連携・協働を行う様々な活動を「地域学校協働活動」と言います。具体例として、文部科学省の「ガイドライン」には、「学校支援」「土曜日・放課後支援」「まちづくり」「地域活動」「子どもの学習支援」「家庭教育支援活動」が示されています。他にも、キャリア教育や読み聞かせ、自然体験活動等も想定され、「学校の働き方改革」に資する活動も多く含まれます。

登校班による集団登校への安全指

導や地域行事への参加、ボランティア活動等、これまで行われてきた多様な子ども会活動は「地域学校協働活動」であるということです。

従来、各実施主体がそれぞれの目的で活動を行っていました。個別の対応が学校・教員の多忙化の原因となったり、子どもたちの成長にとって意義深い活動であっても途絶えてしまったりすることがありました。そこで、学校と地域が連携・協働し、組織的・継続的に子どもたちの成長を支える仕組みとして、中学校区ごとに「地域学校協働本部」を整備する市町村が増えていきます。

幅広い層の地域住民や団体間でネットワークを形成し、互いの情報を共有しながら役割に応じた活動が進められることとなります。個々では成し遂げられないものもチームの力で実現することが可能となります。継続性が担保されるとともに、教育活動に地域の総力が結集され、学校・教師の負担軽減にとどまらず、地域の活性化も大いに期待できます。

四 おわりに

人生一〇〇年時代を生き抜く基礎力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の育成が求められています。働き方改革で、子どもたちの学校外における時間は増加することが見込まれます。未来を託す子どもたちの健全育成の推進役として、今後ますますの活躍を祈念しています。

上越地区

岩内町との
交流会に参加して

東城町三丁目子ども会
六年 雲田 夏希

上越市の姉妹都市、北海道岩内町の小学生との交流会に参加しました。直江津港と岩内港を結ぶ航路ができたのをきっかけに始まり、航路がなくなった今でも交流が続いています。

交流会では、シエスチャージャーや勾玉作りをしました。勾玉作りは丸く削るのが難しかったけど、みんなで話をしながら上手に作る事ができました。

北海道の話は聞いたり、たくさん一緒に遊んだりして、とても楽しかったです。

北海道では、修学旅行は道内の有名な所をまわる



ことや北海道には梅雨がないことを知りました。岩内町でも上越のいいところを伝えてほしいなと思いました。

初めての交流会

大豆子ども会
五年 長谷川 麗美

七月二十八日に北海道岩内町の交流会がありました。知らない学校の友達との交流では、はじめて会つので緊張しましたが、班に分かれて弁当を食べながら少し仲良くなりました。

岩内町や上越市の見どころを話し合いました。北海道の良いところを聞いているうちに岩内町に行きたいと思いました。

次にみんなでゲームで盛り上がり岩内の人たちともっと仲良くなりました。一緒に勾玉づくりをしながら住所を交換してお手紙を書く約束をしました。

今度は、お手紙をおして会えたりうれしいなと思いました。さよならをする時は何だかさみしくて、時間がもつとあつたらなと思いました。



中越地区

楽しかった夏のキャンプ

十日町市若葉子ども会
六年 登坂 美湖

私は、今年初めて子ども会の夏のキャンプに参加しました。私の班での役割は副班長でした。夏のキャンプで楽しかった事は二つあります。

一つ目は、魚のつかみ取りです。私は魚のつかみ取りを以前一回やったことが有りましたが、その時は一匹も取れなかったけれど、今回は二匹も取ることが出来ました。

魚はとてもぬるぬるして取りづらかったけれど、取れた時はとても嬉しかったです。

二つ目は、就寝前の自由時間です。その自由時間で班の人とも交流出来て楽しかったです。就寝時間に先生が見回りに来ましたが一回布団に入ってから、また班の人と話を続けていました。

キャンプはあまり好きではないけれど、班の人といっぱい話が出来て、とても楽しかったです。

一生懸命に思い出になりました。



自然体験塾の感想

十日町市如来寺子ども会
六年 井之川 勝栄

ぼくは今年初めて自然体験塾に参加して、どんなものなのかドキドキしていました。そして、自然のすばらしさを感じました。

二日目のオリエンテーリングでは、地図を使って山の中に入って、文字をさがすことをしました。その山の中に入っているとちゅうでは、危険な場所があったり、水たまりがあったりして、とてもたいへんでした。

でも、まわりに花がさいていたり、キノコがあったりしたりしました。その他にもたくさん生き物がいたりして、今まで山をたんけんしたりすることがあまりなかったのでおどろいたし、勉強になりました。

自然体験塾に参加してたくさんを経験したし、たくさんの方が勉強になったのでよかったです。また、来年も来たいと思いました。



下越地区

楽しい!!最高!!みんなに
知ってほしい弥彦の子ども会

弥彦村矢作子ども会
四年 池田 つぐみ

私たちの住んでいる地いきでは
色々な行事があります。

保いく園前の花植え、さつまい
ものなえ植えをお年
よりの人とやっています。

他にも村民運動会
にはジャンボ縄とびに
五、六年生が参加して
一位をとりました。あ
と、民よう流し、と
ろうかつぎや、夏休み
お楽しみ会、盆踊り大
会などもあります。

この中で特に楽し
かったことを紹介しま
す。

まず一つ目は民よう
流しです。どうしてかという
と、あつくて疲れたけど友達とい

っ
たので飲みほしました。おいし
かったです。

二つ目は盆おどり大会です。ど
うしてかという、お母さんがし
ていたスーパールすくいのお
店で、ポイより大きな
アヒルをとったからで
す。アヒルが重くてポ
イが曲がってしまいま
した。

それから焼き鳥を八
本食べました。シユー
スを飲んで輪なげとひ
もひきもやりました。
とても楽しかったです。

これから秋になる
と、少年少女バドミン
トン大会やボーリング
大会があります。私は
けんめい練習をして勝ちたいです。



佐渡地区

たのしかったカローリング

潟端子ども会
二年 甲斐 悠希

子ども会のみんなといっしょに
ニユースポーツこうりゅう会にさ
ん加しました。そしてカローリン
グというスポーツをし
ました。

会じようのたいいく
かんについたら、りょ
うつのスポーツすいし
んいんの野口さんとた
いそうやゲームであ
そびました。ゲームは
手や足などからだを
使ったじゃんけんなど
をしました。ほかの子
ども会のもたちと
もなかよくなれてよ
かったです。

それからカローリ
ングをやりました。
ルールややり方はりょ
うつのスポーツすいし
んいんのさとうさん
で、やさしくおしえ
てくれました。それ
から六チームに分か
れて一人一回、シエツ
トローラーというど
うくをまに向かってころがしま
す。冬に氷の上でやるカローリ
ング

のようなスポーツだな、と思いま
した。

さいしよは、みんなまとの中に
止まらなくて、0点ばかりでした
が、投げるしゅんばんをかえたり、
あいてチームをかえてなんども
やっていたら点が入るようになり、
とても盛り上がりました。

まとの中に止まっ
たあいてチームのロー
ラーに当ててはじき
とばしたり、みかた
のローラーに当ててし
まったり、むずかし
かったです。

ぜんぶのチームと
やったら、けっかはっ
びようです。するとほ
くのチームがゆうしよ
うでした!

ほかのがっこうのと
もたちともあそべて、
とてもたのしかったで
す。またスポーツ大会
があればさんかしたい
です。ちがうスポーツやゲームも
やってみたいな、とおもいました。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。

かろうしようしよ
うひんはとしよカードで
した。たくさん本を
かけてよみたいとお
もいます。



令和元年度

第二回中学生・高校生

ジュニア・リーダー中級研修会

・期日 令和元年六月二十九日(土)～三十日(日)
・会場 国立妙高青少年自然の家

初めて参加した中級研修会

板倉区 中一 猪俣 美緒奈

私は、中級研修会に初めて参加しました。この中級研修会で、学んだこと、思ったことは、二つあります。



二つ目は、考える力です。中級研修会では、イベントを自分たちで「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうする」

の課題にそって計画をしたり、ゲームを考えたりましたりしました。イベントを考えることは、とくに難しく、時間内には終わりませんでした。これらのごことで考える力がすこくついたと思います。

私はこれらのこと以外にも、マナーや思いやり、協力、などを学び、充実した二日間を送ることができました。また、このような機会があったらぜひ参加して学んだことを「活動」に生かしたいです。

中級研修会で学んだこと

板倉区 中一 藤井 湖春

私は、

今回が初めての研修会です。

私は

この研修

会でジュ

ニア・リ

ーダーと

してこれ

からどう

行動すべ

きかを考



えようと思いました。

今回の活動で、私が学んだことはリーダーとして、すぐに正確な判断をし、それを行動に移すということです。ジュニア・リーダーは主に地域活動にボランティアとして参加して活動しています。その地域活動では小学生が参加しているものもあるので、そのようなところで



がしっかりと動けていないと、みんなが困ってしまいます。なので私たちリーダーは正確な判断をしていかなければいけないと思います。

ジュニア・リーダーはその活

動をより良く、楽しくするために、たく

さん考えて、準備をしたりしています。

先日地域活動があり、終わったとき

に小学生から「楽しかった」という声が多

く聞けてとてもうれしかったです。こ

のような声私たちがやりがいとなり、

力になります。これからも多くの活動

に参加し、リーダーとしての活躍ができるよう、頑張ります。

色々な事を学んだキャンプ

柏崎市 中一 高橋 暖人

僕がこのキャンプで楽しかったことなどが三つあります。

一つ目は、とてもおもしろく、すぐ仲良くなってくれたことです。

僕はさいしょたれがくるかとてもビクビクしてましたが、すこし楽しみにしていました。ですが、あつてさいしょは、とてもおとなしいと思ってました。ですが次のアイスブレイキングで本当の性格を知りました。

二つ目は楽しかったアイスブレイキングです。

アイスブレイキングで緊張などをこわすというので本当でした。ちえのわで妙高の人がとても元気に、はきのある顔になってとてもおもしろかったです。

三つ目は不思議がたくさん？のよです。

妙高の二人目もき

てふるの帰りにクワガタがいてつかま

えたらかまれて指がちぎれるかと思

いました。そして部屋にもどり夜オカシ

パーティーをしなが、話してとても

おもしろく楽しく寝ました。

僕はこのキャンプで学んだ二つ目の

ことをどの県に行ってもしていきたい

です。



全国子ども会ジュニア・リーダー研修会

期日 令和元年七月十三日(土)〜十五日(月)
会場 国立オリンピック総合記念センター

子どもたちと自分

柏崎市 高一 前澤 啓人

今回、この集会に参加させていただいて、様々なことを学びました。この集会では主に子ども会について多く学びました。

一つ目に学んだことは子ども会のあるべき姿が変わってきており、それを改善しなければならぬということです。最近子ども会なのに、計画などを大人がほとんどするような子ども会が増えてきているということを知りました。そこで、子どもたち自ら物事を計画し、実行し、そこで失敗したことを成長につなげるという本来の姿に子ども会はなるべきだということを知りました。子どもたちが失敗をして成長するために子どもたちの計画が間違ったものでも口出ししてはいけないということも知りました。

二つ目は「J」がするべきことです。先程の余計な口出しはしないというのもそうですが、後から知ったことは、子どもに何かをさせる時に似た体験をさせる、子どもにさせる、求める前に教える、「意図的失敗」「計画的成功」をさせる、ということ



とです。これらは子どもは「知らない」とは言えない。「したことのないことはできない。」ということに基づいています。このようにして自分は子どもたちに寄り添っていきたいと思いました。子ども会のこと以外で学ぶものもありました。それはレクリエーションについてです。子どもとの活動には欠かせないものですが、中でも印象に残っている大切なことは、やらせる子どもたちに孤立感を与えないということです。みんなで楽しむ心構えが大切なんだなあと思いました。今回の集会で参加者の人たちが独自の判断で休み時間にレクをみんなにさせてくれましたが、それが急すぎてついてこれなくなっている人もいました。自分は、レクをやるとしたらみんなに少しずつ教えてみんなが楽しめるようにしたいです。

今回の集会を通して、自分は子どもたちが成長につなげられるようなことをしていきたいと思いましたが、そのために市の「J」の集まりではみんなに考えさせたり、行動させた



りしてなど、子どもたちに寄り添ってほしいです。

全国ジュニア・リーダー研修会を通して

柏崎市 中一 高橋 音王

僕は、全国子ども会ジュニア・リーダー研究集会に参加して、様々なことを吸収して行くことができました。普段ジュニア・リーダーに参加しても分からないこと、全国の人が集まるからこそ知ることが出来る魅力などを学んでくることができました。

まず、全国のジュニア・リーダーの人たちとコミュニケーションをとっていく中で、一番最初に話題になったのは、どういったコミュニケーションがあるかということでした。地方や県、あるいは市によって、まったく異なったレクがあったり、ルールは同じだけれど少しちがったりと、たくさんの方にコミュニケーションがあって驚きました。初めて合った友だちと、レクを披露して、実際におたがいでやってみると、自然と仲よくなれたことや、緊張がほぐれたりすることから、レクリエーションは、本当に効果があるんだなあと、実感することができました。

次にジュニア・リーダーという団体はどうあるべきか、ということをととても深く学ぶことが出来ました。班になって活動していく中で、たくさん気がかされることがありましたが、その中で、「信頼」や「積極性」、「子どもをよく知る」といったキーワードがよく出てきました。



これらのキーワードは、自分自身を高めるためにもとても必要なことなんじゃないか、と感じました。

この研究会で特に印象に残ったことは、ジュニア・リーダーをしていく中で、一人ひとりを大事にし、理解することが大切だ、ということを学んだことです。このことを聞いて、僕は共感することができたと思います。一緒のメンバーを十分に知った上で、仲よく活動していくことがいいということが分かりました。このような面が、アイスブレイキングなどをする理由につながってくるんだなあと、気付くことができました。

これらの学びを通して、ジュニア・リーダーの必要性を改めて感じるようになりました。会長は「よりよい地域コミュニティを形成することが目的だ。」と言っていました。それを達成するために、心と心のふれあいを感じる場所や時間を、僕たちジュニア・リーダーがもっとつくっていかたいと思います。自分も、そのためにできることを見つけ、様々な体験をしながら学んでいきたいです。

令和元年度 第47回 関東甲信越静地区子ども会 ジュニア・リーダー研修大会

・期日 令和元年8月16日(金)~18日(日) ・会場 山梨県八ヶ岳少年自然の家

関プロで 学んだこと

柏崎市 中二

金田 妃暖

私は今回、初めて関プロに参加しました。たくさんの人と出会い、貴重な体験をさせていたいただきです。

私は最初、関プロがとても楽しみでした。ですが、宿泊も活動も全て他県の人たちと一緒に聞き、いっきに不安と緊張でいっぱいでした。ですが、アイスブレイクやレクを通してうちに、打ち解け、「楽しい」と思うようになりました。たくさんの人から声をかけてもらい、不安や緊張も消えていきました。

私が心に残っているのは、遊びなどのルールを説明する時、「教える側も、参加者側も楽しくやる。」とい



うことです。教える側が真顔で、ただペラペラとルールを読んでいるのはどちらも楽しんでいると言えません。ですが、教える側がとても笑顔で、参加者と関わりながら話していればその場の雰囲気

がよくなりどちらも楽しくなると思えます。周りの人と一緒に協力しながらやることで楽しさは増すんだと学びました。

関プロでは仲間の大切さも学びました。三日目の振り返りの時みんな泣いたことを鮮明に覚えています。関プロで学んだこと、そして関プロで出会えた仲間へ感謝し、活動に生かしながら頑張っていきます。

関プロに参加して

柏崎市 中二 宮嶋 ころろ

私は、今回初めて関プロに参加しました。他県のJLと関わることも初めて

だったのととても緊張しました。でも、他県のJLと活動していくとだんだん緊張がほぐれていき、楽しい時間が過ぎました。

楽しいだけでなく、学ぶことも多くありました。例えばいたごちです。柏崎市はそうだったのでこれ

からの活動に生かしていけるようにしていきたいです。他にもゲーム内容を教える方法や、小さい子でも楽しめるレクを

教えてもらったりためになることが多くありました。その中でも、年れい、性別問わず、仲良くできていたことがすごかったです。みんな緊張してはたはずなのに自分から声をかけたりしていたので、やっぱりJLはすごいなと思いました。

他にもたくさんの方からJLとしての大事なことを学ぶことができました。私はJLになってまだ一年目なので分からないところだらけです。でも三日間の関プロで学んだたくさんの方をこれからJLの活動や、普段の生活に生かしていけるように努力したいと思います。来年の関プロでもたくさん交流し、たくさん学べるようにしたいと思います。

他にもたくさんの方からJLとしての大事なことを学ぶことができました。



として自分がまだまだ学べていないことがたくさん含まれていました。それは、各活動、レクを進めるにあたり、それを進める自分たちの表情・テンション・声のトーンなどでそれを受ける参加者の気分やその後の不安感などを大きく変えてしまう、ということです。

今まで自分が何気なくしてきた行動・言動で何が嫌な思いをさせてしまったかもしれないと感じました。自分

がこれから活動していく中で他県のJLのように心から親しみやすいと思われるような常に笑顔なJLになろうと強く決心しました。

今回の関プロでは、どの活動も心から楽しめ本当に有意義な時間を過ごせたと思います。たくさんの方と関わり、自分の目指すべき姿が少しだけ見えたような気がします。その姿に少しでも近づけるよう今回の経験、学べたことをこれからのJLの活動だけでなく、普段の生活や学校でも活かしていけるよう頑張っていこうと思います。

関プロに参加して

柏崎市 中三 植木 茜

私は、今回初めて関プロに参加をしました。関プロに行く前日まで、他県のジュニアリーダーの方とうまく活動をしていくかとても不安でした。

そして、関プロ当日では最初にアイス

関プロに参加して

柏崎市 中三 植木 葵

私は今回初めて関プロに参加し、本当にいろいろなことを学びました。

会場に到着し、他県のJLを目にし、不安しかない自分がありました。

アイスブレイクからはじまり、活動していくうちにその不安は消えていきまし

ブレイクをしました。この活動の中で自然に不安や緊張がほどけ、コミュニケーションを取る中でも大切な活動だということも学びました。また、活動をする中で自分がかまらず楽しむことの大切さを学びました。

今回の研修で、他県のリーダーと活動していく中でも楽しい時間を過ごせました。ですが、楽しむ所は楽しむ、真剣にする時は真剣になると、メリハリがしっかりとついていました。

今後、同じリーダーとして見直していきたいと、改めて思いました。キャンプファイヤーでは全員が楽しみ、とても充実した時間を過ごせました。

今回の研修で、たくさんコミュニケーションを取れたし、他県のレクをたくさん学ぶことができました。今回学んだ事を今後のリーダー活動で活かし、よりよい活動をできるように頑張っていきたいです。



今回の研修で、たくさんコミュニケーションを取れたし、他県のレクをたくさん学ぶことができました。今回学んだ事を今後のリーダー活動で活かし、よりよい活動をできるように頑張っていきたいです。

関プロで学んだこと

柏崎市 中三 石塚 彩花

私は今回初めて関プロに参加し、たくさん学ぶことができました。

会場に到着し、他県のJLを目にする

るととても不安になりました。自分が想像していたよりも人が多く高校生ばかりで三日間、自分は本当に大丈夫なのかと関プロに参加したことを後悔しました。

アイスブレイクがはじまり、不安は少しずつ消えていきました。また、アイスブレイクではJLとして学ぶべきことをたくさん教えていただきました。たくさん教えた中で特に印象に残っているのは活動をするとき、進行をする人、みんなの前に出る人の表情や行動、態度によって、参加者の盛り上がり方や不安感が全然違うということでした。私はこれを聞き、今までの私は、参加者を不安にさせてしまったことがあるのではないかと思いました。それと同時にこれからは参加者を不安にさせないように気をつけようと思いました。

今回の関プロでは活動を楽しみながら多くのことを学び、またたくさんのお会いがありました。自分が目指すJLになれるよう、関プロでの経験を活かし、JLの活動や日常生活をよりよいものにしていきます。

関プロで学んだこと

柏崎市 中三 長谷川 まどか

私は今回の関プロが二回目の参加でした。前回の関プロとは全く違う新しいことを知る、挑戦する良い機会でした。

今回の関プロで一番印象に残っているのは、他県のリーダーの様子です。オリジナルTシャツやキャンプネーム、話し方などで距離を縮めていたり、緊張していた私に明るく接してくれたりしました。何よりすごいと思ったのは自主性です。私の中で発言はできませんでしたが、他県のリーダーはどんどん自分から発言、行動をしていて、堂々としていた姿はすごかったです。



また、レクやいたごちも新しいものを学べました。どれも盛り上がる楽しいものばかりでした。全体の活動の中だけでなく、宿泊する部屋でも教えあい、その中で仲間との距離が縮まりました。

JLとして活動させていたでいる今、たくさんさんの事を吸収して活用していきたいです。また、JLとしてだけでなく、どこでも活躍できるリーダーを目指してがんばっていききたいと思います。



から求められるようなリーダーになるために頑張っていきたいです。

学んだこと

柏崎市 中二 中川 基喜

今回のキャンプは私にとって驚くことばかりでした。最初のアイスブレイクから他県の積極的なオーラに圧倒されました。みんなのノリの良さについていけなく、固まってしまい緊張の連続でしたが、それは自分が参加者の立ち場として受け取っているからだだと気づき、段階を踏んでいくアイスブレイクの最後には自分もキャンプを盛り上げる一員なんだなと感じ、楽しく積極的になることができました。

このキャンプで楽しかったことは「いたごち」です。私にとって全てのいたごちが初めてで、新鮮でした。ご飯の前に行った一言だけのいたごちでも、充分盛り上がりがあります。柏崎では地域の子どもたちを募って行うキャンプはありませんが、二年後の関プロのため、私たち特有のいたごちを作りたいなと思っています。

また、今回学んだリーダーとして大切な、人の話を聞くことをもっとスキルアップさせたいです。私も話を聞いてくれる人には安心感と信頼感を持ちます。

私はこれからも、他人



二〇一九年度
子ども会

安全啓発初級指導者養成講習会

妙高市子ども会連絡会 事務局 阿部 達也

二〇一九年度子ども会安全啓発初級指導者養成講習会が上越市民プラザにおいて、七月七日、日曜日九時三十分から十六時にかけて、九名の受講者が参加して開催されました。

県子連、須田会長より挨拶をいただいた後、県子連、武士侯顧問を講師に迎えて、講習が始まりました。

講習は四人一組の二グループで、グループ演習を交え、武士侯講師の巧みな話術に緊張もほぐれ、穏やかな雰囲気の中で、楽しく受講することができました。

今回の講習では、初めての参加者はおらず、それぞれの視点から様々な意見が出やすく、少しでも視野を広げることができ、有意義な講習でした。

◆講習内容◆

一、初級指導者講習会の説明

① 講習の目的

- 子ども会活動に携わる指導者・育成者が安全普及啓発活動を理解し子ども会活動が安全に安心して運営できること。
- ② 講習を受講するにあたって
- ③ テキストについて
- ④ 講習会について
- ⑤ 講習会終了後
 - KYTに特化せず、安全復旧啓発活動の一環として捉え、安全・安心全体を理解する。
 - ⑥ 初級指導者とは
 - 青少年の育成活動の充実復興を図ること。

二、安全と安全教育について

- ① 安全教育の考え方
 - ・ 安全の意義
 - ・ 潜在危険の予測
 - ・ 冒険への挑戦
 - ・ 安全能力の構成
 - ・ 安全能力の発達

② 事故の要因と安全教育

- ・ 活動そのものに原因がある場合
 - ・ 参加者に原因がある場合
 - ・ 環境・服装に原因がある場合
- 三、産業界の安全対策について
- ・ 危険予知訓練
 - ・ ゼロ災運動
 - ・ 指差呼称（指差し確認）

四、子ども会裁判について

- ・ 津市四ツ葉子ども会事件
- ・ 刑事裁判・民事裁判のてん末

五、子ども会KYT4ステップグループ演習

六、子ども会KYT4ステップ子ども指導演習

七、スポーツ行事ケガ防止

↓まなぼうさい(災害時対応)

八、子どもたちへの安全啓発の仕方研究・五分間KYT



全子連表彰 喜びの声

二つの講演に感動して 「感謝、感謝の三十年」



新潟県
子ども会指導研修部
部長 梶澤 政晴

第五十三回全国子ども会育成中央会議・研究大会が十月四日、五日と倉敷市で行われました。受賞者として参加してきました。全国から六十七名の皆さんとともに、表彰状と感謝状をいただきました。また、団体表彰として、長岡市の「悠和子ども会」が受賞いたしました。単位子ども会としての活動が認められ、さらなる「子どもの手」による子ども会活動」を推進されることを願ってやみません。

今回の大会の「未来の子どもたちのため子ども会活動」をテーマに、分科会では「こんな子ども会活動に取り組んでいます」と四つの事例発表が行われ、それらに基づき、グループごとに参加者の活動を聞くことが出来参考になりました。その中にジュニア・リーダーを卒業し、ユースとして活動している若い人が参加していましたので、その市でのジュニア・リーダーの活動の様子を聞くことができ、参考になりました。その市でのジュニア・リーダーは四十人くらいで組織され、役員体制



がしっかりとされていて、ジュニアが責任をもって単子等に派遣していると聞き驚きました。新しいジュニアが入ると二日間の研修会に参加し、すぐに派遣に参加できるようにジュニアの自覚をもって活動することと本心に驚きました。理想です。

今回の基調講演「今、家庭・家族に必要なもの」と題し、森美智子氏が自身の活動を通じて感じている青少年を取り巻く環境について厳しい言葉で我々に話しかけられました。ひとつひとつの言葉で、自分が叱られているように感じ、身の引き締まる思いの講演でした。

二日目の午後は「キセキの葉書」の映画の観賞とその映画の原作者、脇谷みどり氏の講演でした。映画を見終わった後、感動が冷めやらないうちの講演でしたので、さらに感動が増幅されました。小児まひの子を育てながら、また、うつ病の母親に葉書を毎日送り、葉書を張り合いに母親のうつ病が治ったこと、小児まひの子との心の通い合い。その大変な状況の中、童話を近所の子に聞かせながら、書きあげ本として出版のこぎつたことなどあつという間の三時間で演が聞けたことが、今回の受賞の一番の心への褒美と思います。感謝です！

全子連表彰を受賞して



長岡市
悠和子ども会育成会
会長 諸橋 裕子

この度は、全国子ども会連合会表彰をいただき誠にありがとうございました。このような表彰を受賞するタイミングで子ども会会長に就き、大変光栄に思います。また、このような表彰を受賞することができたのも、県子連、地区子連、地域の皆様のご指導、ご支援のおかげだと思ひ感謝申し上げます。

簡単に私たち悠和子ども会をご紹介します。発足は昭和三十八年ですが長岡市悠久町と長倉の子どもたちで悠和子ども会として会則など制定したのが昭和六十二年で、それから三十二年目となりました。

現在の育成会活動は、主に小学生が主体となり、会員数は八十世帯百一人の子どもたちで活動しております。子ども人数が減少するなか、まわりの子ども会に比べると人数も多く、毎年百人前後の子どもたちで活動することができております。

また、育成会役員は六年生と三年生の保護者が役員を務め、会長は六年生の保護者の中から立候補がなければくじ引きで決めておりますので、毎年会長が変わるようになっております。なので、私もくじ引きで今年度会長となり、また昔からこの地区に住んでいたわけではないのですが、活動していくうちに町内会長さんや老人会の方々など地域の皆様とも知り合うことができ、私もよ

うやく地域の一人になったなと実感しております。

活動内容は三月に子ども会の役員を集めて総会を行い、年間の行事の確認、役割分担などを決定します。四月に新一年生を迎える会があり、五月と十月には廃品回収を実施、八月にはラジオ体操、九月には町内祭りに参加、九月末に町内運動会、十二月にクリスマス会&六年生を送る会、一月にさいの神を行っております。この他に長岡市連絡協議会主催の子どもフェスティバルや栖吉地区青少年育成会連絡協議会主催のお料理教室にも参加しております。

また、今年度は私たちの地区にありまます悠久山公園が誕生して一〇〇年を迎え、悠久山フォーラムおめでとう一〇〇歳に町内会長さんより依頼を受け、悠和子ども会より六年生が代表して八名参加し、小学校で悠久山公園について調べたことやこれからの公園についてなど発表させていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。

この悠和子ども会の良い所は、永年にわたり会員が仲良く一緒に活動することと子ども想像力や、仲間の大切さを身につけ、また町内の方たちとの幅広い年齢層の中で地域とのつながりを大切に活動しているところだと思います。世帯数も増え、新しい家族が増える中、地域が必要とされる融和と絆に子ども会の活動が大きな役割を果たしているように、今後より一層みんなで協力して活動していきたいと思ひます。

この度は本当にありがとうございました。

金子連表彰を受賞して



柿崎区
子ども会連合会
副会長 小山 涼子

この度は、全国子ども会連合会表彰をいただき大変光栄に思います。ありがとうございます。

私が、子ども会活動と関わりを持ち始めたのは、小学校五年生の頃からでした。私の住んでいた上越市北本町二丁目では、町内に住む中学生のお兄さんお姉さんが、お楽しみ会やクリスマス会、キャンプなどに来てくれて進行やゲームをしてくれていました。そして、いつも楽しくゲームなどをしてくれたり、堂々と説明をする姿に、いつしか憧れ、私もそんなふうになりたいと思うようになり、シユニア・リーダーを目指すようになりました。

小学校五年生、六年生、中学一年生で三つの研修に参加し、シユニア・リーダーになることができました。少し迷いはありましたが、研修の時に参加してくれたシユニア・リーダーの先輩の「シユニア・リーダーになって引つ込み思案だった自分から変わることができた」と言う言葉に惹かれて入ることにし、大人になるまでずっと子どもと関わりを持っていきます。上越市で活動していた私ですが現在は柿崎で活動しています。当初はシユニア・リーダーが少なく、私たちも企画運営に携わっていましたが、少しずつメンバーも増え、シユニア・リーダー六名、ユース・リーダー五名で活動をしています。

決して多い人数ではありませんが、みんな忙しい中、都合をつけて参加してくれています。

少子化や時代の流れから、子ども会活動の内容が少なくなったり、子ども会自体がなくなっている所もあると聞いています。現に私が子どもの頃と比べると活動内容も変わったたり行事が減っているのが現状です。

しかし、今のような時代だからこそ、子どもたちと地域の関わりを深め子どもたちが地域で安心して過ごせる環境

子どもの遊びのひろばin糸魚川

県子連 総務部長 桐生 正 栄

子どもの遊びは、遊びを通して豊かでしなやかな心を養い、親子の絆を深めます。

今年度第二回目の子どもの遊びのひろばは、十一月四日(日)に糸魚川市民会館において実施されました。今回の参加団体は七団体(上越市柿崎子ども会連合会・妙高市子ども会連絡会・柏崎市子ども会連合会・三条市子ども会連合会・加茂市青少年育成団体連絡協議会・新発田市子ども会連合会・国立妙高青少年自然の家)でした。

糸魚川市のキッズフェスタバル二〇一九と合同開催となり、親子連れが多く、三〇〇名を超える市民の参加がありました。ご協力いただきました

を整えることが大切だと考えます。

シユニア・リーダーの延長のような感覚で続けてきただけの私ですが、シユニア・リーダーを通して人との関わりや異世代の方との関わりを学び先輩方の言葉を通して、言葉による人への影響力を学びました。今まで一緒に活動してきた仲間、指導して下さった皆様、地区子連、県子連の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも子ども会が発展することを願っています。

この度は、ありがとうございます。



糸魚川市教育委員会・当日スタッフ・参加団体の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会 E-Mail n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

◆今後の予定◆

【令和元年】

・県子連第二回理事会
(長岡市中央公民館：さいわいプラザ)
十一月一日(日)

【令和二年】

・関フ口会長・事務担当者会議
(オリンピックセンター)
一月十七日(金)

・関フ口安全啓発中級指導者講習会
(オリンピックセンター)
一月十八日(土)十九日(日)

・第五回編集会議(新潟会館)
二月十六日(日)

・県子連第三回理事會新潟市東区プラザ
三月一日(日)

・県子連だより第一三二号発行
三月六日(金)

・県子連第三回JL中級研修会
(長岡市千手コミュニティセンター)
三月十四日(土)

あとかき

○近年は、地球温暖化の影響が、台風や水害の被害が多くなっています。被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

○今年度の関フ口静岡大会には、新潟県から三十三名の皆さんが参加されました。来年の新潟大会をPRしたり、多くのことを学ばせていただきました。最後に、県子連だよりの原稿をお寄せいただきました皆様に、心より御礼申し上げます。(文責:板垣)

編集発行 一般社団法人
新潟県子ども会育成連合会
〒九五一一八二二
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇五一一三〇一五二九八
FAX 〇五一一三〇一五二九二